

令和2年度 宮城県試験研究機関評価委員会 第1回 工業関係試験研究機関評価部会

研究課題に係る評価部会実施結果

1 評価部会委員

評価部会委員名	所属・職名等	摘要
福村 裕史	独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校 校長	部会長
赤羽 優子	株式会社ティ・ディ・シー 代表取締役社長	副部会長
伊藤 日出男	国立研究開発法人産業技術総合研究所 東北センター 所長	
阿部 賀寿男	株式会社阿部蒲鉾店 代表取締役社長	欠席
佐浦 みどり	有限会社東北工芸製作所 常務取締役	
菅野 直	バイスリープロジェクト株式会社 代表取締役	

2 評価対象課題

(1) 重点的研究課題の事前評価

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
多相流シミュレーション技術の高度化研究	<p>本研究では、地域企業が高度で複雑なシミュレーションに対応できないという課題に対応するため、特にニーズの高い気体・液体・固体が相互に干渉する物理現象(多相流)を同時に解析するための、シミュレーション機能拡張技術を開発する。また、得られた結果が妥当であるかどうかを評価する手法の開発も同時に行う。</p> <p>本研究で開発した技術を地域企業へ移転することにより、県内企業の製品開発における競争力向上を目指し、その先で高度なシミュレーション技術を持つ人財の育成につなげることを目的とする。</p>	令和3年度から令和4年度	3,480千円	事前評価

3 評価項目

(1) 重点的研究課題の事前評価

- イ 研究目標のニーズ適合性・地域貢献度
- ロ 緊急性・優先性
- ハ 独創性・先進性・優位性
- ニ 市場性・成長性
- ホ 実現可能性
- ヘ 人・予算・設備等の推進体制

4 評価結果

(1) 重点的研究課題の事前評価

イ 多相流シミュレーション技術の高度化研究

ぜひ採択すべきである。

5 研究課題評価表

別紙のとおり。

研究課題評価表（事前評価）

課題コード	RHAR03012	評価実施日	令和2年11月6日	工業関係試験研究機関評価部会
試験研究課題名	多相流シミュレーション技術の高度化研究			
試験研究機関名	経済商工観光部 産業技術総合センター			
担当部署・担当者名	担当部：自動車産業支援部 担当リーダー：吉川 穰			
研究機関	令和3年度～令和4年度			

項目別評価	評価項目 評価基準	評価			係数 平均	比重	採点 (点)
目	研究目標のニ ーズ適合性・地 域貢献度 S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	88.0	0.3	26.4
		A	B	S			
		阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
		—	S	S			
		————— 非公開 —————					
別	緊急性・優先性 S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	76.0	0.1	7.6
		A	C	A			
		阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
		—	A	S			
		————— 非公開 —————					
評	独創性・先進性 ・優位性 S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	72.0	0.1	7.2
		B	B	A			
		阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
		—	S	B			
		————— 非公開 —————					
価	市場性・成長性 S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	84.0	0.2	16.8
		S	A	A			
		阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
		—	S	B			
		————— 非公開 —————					

実現可能性 S 極めて高い A 高い B 普通 C やや低い D 低い	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	68.0	0.2	13.6
	C	B	A			
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
	—	A	A			
————— 非公開 —————						
人・予算・設備等の推進体制 S 非常に優れている A 優れている B 妥当である C やや不足 D 不足	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	56.0	0.1	5.6
	A	A	A			
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員			
	—	D	D			
————— 非公開 —————						
	合計				1.0	77.2

※採点の計算方法：係数（S=100，A=80，B=60，C=40，D=20）に項目の比重をかけたものを採点とする。

	評 価			数値平均	総合評価
総合評価	福村部会長	赤羽副部会長	伊藤部会委員	4.6	S
	A	A	S		
	阿部部会委員	佐浦部会委員	菅野部会委員		
	—	S	S		

評価基準

S：ぜひ採択すべきである　A：採択したほうが良い　B：計画を見直した上で、採択しても良い
C：採択の必要性は低い　D：採択すべきではない

※総合評価の算出方法：各部会委員の総合評価を数値「S=5，A=4，B=3，C=2，D=1」に置き換え、その平均値を少数第1位で四捨五入した数値に相当する評価を総合評価とする。

所 見	————— 非公開 —————